

## 2016年度 一般社団法人日本社会福祉学会 事業計画

一般社団法人日本社会福祉学会は、定款に定められた公益目的を達成するために、2016年度は下記の事業を行う。なお、2016年度は、事務局業務の全面委託の3年目にあたる。新しい体制での事業をより円滑に実施できるよう努めていきたい。

## 記

## 1. 学術研究集会・講演会等の開催について

社会福祉学の研究成果の発表・知識の交換を行うために、下記の事業を推進する。

## 1) 第64回春季大会・秋季大会について

- ・学会本部企画シンポジウムを中心とした「春季大会」

テーマ：「社会福祉学における三浦理論 ―検証と継承―」

開催年月日：2016年5月29日（日）

開催会場：立教大学 池袋キャンパス 11号館 AB01教室（地下1階）

現在の社会福祉学における三浦文夫先生の研究業績を振り返り、その主要な理論が有する理論的な意義と、その理論が現実の社会福祉政策に如何に影響を及ぼしているかを検証し、将来にむけた課題について検討する。

- ・会員の研究発表を中心とした「秋季大会」

テーマ：「社会福祉が育む 「共生の創造」」

開催年月日：2016年9月10日（土）～9月11日（日）

開催会場：佛教大学（紫野キャンパス）

前回の秋季大会と同様、抄録集はWEBでの閲覧を原則とし、開催コストの削減を目指す。基本的なプログラムは、会員による個人研究発表（口頭発表、ポスター発表）、特定課題セッション、大会テーマに即した大会校企画シンポジウム、若手研究者のための企画、留学生のための企画とする。

なお、本年度は、国際交流企画の日本社会福祉学会担当年にあたるため、日本、韓国、中国を中心とした企画の実施を、国際交流委員会とともに図る。

## 2) 各地域ブロック研究大会について

各地域ブロックの「研究集会」等を支援し、地域ブロックの研究活動の活性化を図ると同時に各地域の学術振興に寄与する。

## 3) 日本社会福祉学会フォーラムについて

会員および一般住民の関心なども踏まえながら、担当地域ブロックと連携し、学術フォーラムを開催し、地域における社会福祉学の普及・推進を図る。2016年度は中国四国ブロックにより開催をする。

## 2. 学会誌の刊行について

会員の研究成果を国内外に公表するために、下記の事業を推進し、研究成果の普及に努める。

- 1) 学会誌『社会福祉学』第 57 巻 1 号~4 号の刊行
- 2) 英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』（第 57 巻 5 号）を電子ジャーナル中心に刊行

## 3. 研究の奨励・研究業績の表彰について

会員の研究水準の一層の発展を図るために、学会賞事業を推進すると共に、若手研究者の育成に努める。

## 4. 関連学術団体との連携について

従前通り、関連学術団体との連携を図る。「日本社会福祉系学会連合」、「社会学系コンソーシアム」、「社会政策関連学会」などの活動を支援すると共に、本学会の研究水準向上に努める。

## 5. 国際交流および研究協力の推進について

### 1) 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

- ①2014, 2015 年度に引き続き、秋季大会での留学生ワークショップ企画・開催
- ②ホームページ等を活用した留学生研究交流のための情報提供
- ③地域ブロック別での留学生会員向けの活動や情報提供

### 2) 自由研究発表・国際学術交流シンポジウム等への協力

- ①4 月 29, 30 日 韓国社会福祉学会春季学術大会への自由研究発表者派遣審査・決定と協力
- ②9 月 10, 11 日 秋季大会「国際学術シンポジウム」開催
- ③中国社会福祉研究専門委員会年次大会（招聘があった場合）への派遣協力

### 3) 韓国、中国をはじめとする東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

- ①韓国会福祉学会「覚書」に基づく共同研究等の具体的学術交流の検討・実施
- ②中国との学術交流のあり方の検討と具体的学術交流の実施
- ③東アジア諸国の社会福祉学会等の研究活動に関する情報収集と交流の検討

### 4) 欧米諸国との連携及び学術交流の検討

- ①欧米諸国の社会福祉学会等の研究活動に関する情報収集と交流の検討

## 6. 広報活動について

### 1)学会ホームページの管理・運営

各種新着情報の掲載・コンテンツの充実等学会ホームページの充実を図り、必要に応じた各ページの改善・更新（英文 HP 含む）を行う。

### 2) 「学会ニュース」の発行（年 3 回発行）

- ・学会 HP に掲載（郵送希望者には印刷したものを郵送）
- ・特集記事（シリーズもの）や地域ブロック情報等の掲載による内容の充実

### 3) 「広報委員会だより」の発行（年5回～6回の一斉メール送信）

「学会ニュース」との差別化を図るため、実態に即して名称を改め、学会としての最新の情報や関係団体の動向等、タイムリーな情報提供を行う。「広報委員会だより」では、学会の最新情報および関連団体の動向などを中心に配信し、事務局業務関連連絡は、「事務局からのお知らせ」として事務局が随時送信する。

### 4) 新規事業：学会員の著書（著作）情報のメール配信

学会員が新たに刊行した著書の情報を期日を決めて募り、定期的にメール配信をする。学会員の業績を広く共有できるとともに学会賞選考時の図書選定にも利用可能となる。

## 7. 研究倫理について

### 1) 研究倫理問題への迅速な対応

### 2) 研究倫理指針および研究倫理委員会規定の見直し

- ・ 2015年度（それ以前も含む）において生じた研究倫理に関する問題で、研究倫理指針の不十分さが一部に認められた内容について見直しの検討
- ・ 研究倫理指針を解説する研究倫理ガイドブックの内容に関する検討
- ・ 会員の学会における成果公表、量的・質的調査に関する倫理手続き等

## 8. 各地域ブロックへの支援について

「地域ブロック助成金配分基準」に基づいて助成する共に、各地域ブロック事業計画を尊重し、「地域ブロック担当者委員会」を通じて、地域ブロック事業を支援する。

## 9. 総会・理事会活動について

「定時社員総会」を5月29日に立教大学池袋キャンパスで開催する。学会運営を円滑に遂行するため「理事会」および「運営委員会」を開催する。

## 10. 運営委員会の活動について

事務局業務の全面委託を受けて、新たな体制での事務局業務の円滑な実施をすすめ、安定した学会運営を実現する。

## 11. 委員会活動について

上記の諸事業計画を推進するために、役員会を中心に下記の常設委員会および地域ブロックと連携し、学会運営に当たる。

常設委員会：研究委員会・全国大会運営委員会・学会賞審査委員会・研究倫理委員会・国際学術交流促進委員会・機関誌編集委員会・広報委員会・地域ブロック担当者委員会（地域部会委員会）

## 各地域ブロック事業概要

### 1. 主たる事業

- 1) 北海道：①機関紙「北海道社会福祉研究」の発行 ②研究大会・総会の開催 ③研究会の開催 ④ニュースレターの発行 ⑤理事会（運営委員会）の開催
- 2) 東北：①研究大会開催 ②研究誌「東北の社会福祉研究第十三号」の発行 ③ニュースレターの発行 ④幹事会（役員会）の開催 ⑤東日本大震災福祉支援対応研究会
- 3) 関東：①運営委員会、各部会活動の実施・運営 ②日本社会福祉学会関東部会研究大会の開催 ③機関誌「社会福祉学評論」の発行 ④ホームページ・ニューズレターについて
- 4) 中部：①研究例会開催 ②機関誌刊行 ③「院生・若手研究者のための勉強会」の開催
- 5) 関西：①年次大会開催 ②若手研究者・院生情報交流会開催 ③理事会開催 ④機関誌の発行 ⑤ニュースレターの発行
- 6) 中国四国：①部会委員会開催 ②年次大会開催 ③総会開催 ④活動の広報 ⑤機関誌刊行 ⑥会員連携の共同研究の実施
- 7) 九州：①年次大会開催 ②機関誌刊行 ③運営委員会の開催

### 2. 地域ブロック大会・研究会等活動

地域名	開催月日	開催場所	備考
北海道	2017年4月16日	未定	研究会を年3回開催
東北	2016年7月中旬	いわき明星大学	
関東	2017年3月ごろ	未定	
中部	2016年4月23日	金城学院大学	院生・若手研究者のための勉強会を年2回開催
関西	2017年2～3月ごろ	未定	若手研究者・院生情報交流会年3回開催
中国四国	2016年7月2日	宇部フロンティア大学	
九州	2016年6月18-19日	長崎ウエスレヤン大学	

### 3. 機関誌刊行・広報活動

地域名	機関誌刊行	広報活動
北海道	年1回（2017年3月）	ニュースレター 年5回
東北	年1回	ニュース 年2回
関東	年1回刊行	ニュースレター 年1回12月ごろ（紙媒体） メールマガジン、公式twitter、Facebook、RSS機能を活用
中部	年1回	
関西	年1回	ニュース 年2回
中国四国	年1回	会報 年数回（定期年2回）
九州	年1回	

以上